



とらいあんぐる



2016 年 9 月

一音会ミュージックスクール発行

「生きている人」

私の母が、自分の死後、どうなってほしいと望んでいたか、私は知りません。

生前の母に、そのことをたずねたことがありません。

まだまだ死なないと思っていました。

「100歳まで生きる」が口癖だった人です。まさか70歳で死ぬとは思いません。

母の死後のことは、決して不吉だから話題にしなかったわけではなく、まだまだ先の話だと思っていたので、話

題にしなかったのです。

ですから、実際に母がいなくなった今、「母だったら、どうしてほしいと望んだらろう？」と考え、そう考えると、実は分からなくて、身がすくむことがあります。

けれども、幸いなことに私は、このことで深く苦しむことはありません。

母が、自分の母親との間で、こんなやり取りをしていたことを、はっきりとおぼえているからです。

そのやり取りを、最近、よく思い出します。

思い出すと、まるでそこに母と祖母

がすわっているかのような錯覚さえおぼえます。

ある昼下がり、母が、祖母にむかって、話しかけます。

祖母は80歳になろうとしている頃でした。

「お母さん、ずっとずっと先の話になるけれどね・・・いつかの話ね・・・お母さんがいなくなったあと、何か私たちに望むことってある？」

祖母は、即答します。

「ないわ」

祖母は、ちっとも考えるそぶりを見せません。

あまりの反応のそっけなさに、母はすぐに、くいさがります。

「いやいや・・・小さなことでも良いのよ。何か、こうしてほしい、っていうこと、ないの？」

「ないわ」

またも即答です。

「お母さんがこうしてほしい、っていうこと、守っていきたいのよ。何かない？」

「ないわ」

「私たちにできることなら、何でもかなえてあげたいのだけれど」

「ないわ」

「ほら、お母さんが大切にしているものとか・・・もっと抽象的なことでも良いのだけれど」

「ないわ」

母が、あれこれ角度をかえて、質問を繰り返すのに対し、祖母の答えは、ずっと同じです。

すっかり焦れてしまった母が、いいます。

「なんで、ないの?!」

「ないものは、ないわ」

「大事なことでしょう?!」

そこではじめて、祖母は違うセリフをいいます。

「大事なこと? そうかしら? 死んだ人が何を望んでいたか・・・それって大事？」

思いがけない祖母の反論に、母はひるみます。

祖母は、母のほうに向きなおり、母

の目をまっすぐ見ながら、こういっただけです。

「カズコ、私はね、生きている人が大事だと思う」

母は、はっとしたように見えました。

祖母は、言葉をつなぎます。

「もし、私が望むことがあるとすればね、それは、死んだ人にとらわれないでほしい、ってことなの」

母は、何かをいいかけ、そしてやめます。

沈黙がおとずれます。

やがて、祖母が口をひらきました。

宣言するかのような、きっぱりとした口調です。

「すべて、その時、生きている人の都合で、決めてちょうだい。死んだ人の希望にあわせる必要なんて、ないのよ」

それから一転して、昔話をするような口調で言葉をつなぎます。

「時間は流れるわ・・・何がどうなるかなんて、分からない。本当に分からない。その時、その場に身をおいて

いたって、分からない。本当に分からないのよ・・・」

祖母の目は、遠くを見つめるようなまなざしでした。

そばで生きていた私には、祖母がこれまでの人生を思いかえしているように見えました。

おそらく、祖母の人生の中でおこった思いがけない出来事、1つ、1つを、ふりかえっていたのでしょう。

「生きていたって、こんなに分からないのよ！ ましてや、死んだ人に分かるわけない！」

祖母は、なんだか楽しそうにいいました。



母も笑っています。

「そうかもしれない！」

その後、二人の会話は、「先のことなんて、考えたって仕方がない」という、なんとも能天気な結論に発展していきます。

「だって、先のことなんて、分からないんだから。その時、その場で、その都度、最善を考えるしかない！」

二人は、とても楽しそうで、でもどこか苦しそうでもありました。

戦争に大きく人生をくるわされた祖母。

難病に大きく人生をくるわされた母。

この結論に達するまでに、この二人がどれだけの苦しみを乗り越えてきたのか、それは私の想像をはるかにこえるものだったと思います。

それだけに、この二人のやり取りは、私にとって、とても重いメッセージとなりました。

母が何を望んでいたのかは、ききそびれました。

でも、祖母と同様、「死んだ人にとら

われないでほしい」、「生きている人が、その都度、判断しなさい」といったような気がするのです。

そのことは、今、私に大きな力を与えます。

どうしたら良いか、分からない時、「母だったらどうするだろう？」と思うことはあります。

しかし、母のことを思うと、同時に「あなたが考えなさい」という母の声がかきこえてくるのです。「だって、あなたは生きているんだから」とも。

真剣に考えることこそが、今を生きている人のつとめなのかもしれません。

(江口 彩子)



◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

7月28日から4日間にわたっておこなわれた「ピアノ発表会」が、無事、終わりました。

予想通り、暑い日々となりましたが、大勢の方に足をお運びいただき、盛会となりましたこと、心より感謝しています。

大きな事故もなく、無事にすべての日程を終えることができましたのも、生徒さんやご家族のみなさまの、惜しみないご協力があったことでした。本当にありがとうございました。

ピアノを上手にするのは、普段のおうちでの練習やレッスンですが、発表にたえる強い心を作るのは、やはり発表会の大舞台であると、強く感じさせられた4日間でした。はじめての発表会に不安をかくせない小さな生徒さんも、精神的に成長されたことでプレッシャーやストレスにさいなまれる年齢の生徒さんも、大きな曲に果敢に挑戦をされた大きな生徒さんも、それぞれが懸命に、自分と闘いました。本当に立派だったと思います。

そのことの価値が生きるのは、これからです。発表会でのあの雄姿を思い出しながら、また日々の練習にはげてください。

「思うようにいかなかった・・・」と感じている生徒さんもいらっしゃるでしょう。実は、皆、多かれ少なかれ、そう感じています。それが今後の成長のバネになります。悔しさを反省を、良い糧に変えてください。

スタッフ一同も、新しいスタートを切るような心境しております。次のチャレンジに向けて、ともにがんばりましょう。引き続き、全力で指導にあたらせていただきます。

来年の「ピアノ発表会」は、成増「アクトホール」です。2017年8月4日、5日、6日、7日の4日間を予定しています。7月末ですと、学校の宿泊行事と重なってしまうことがありましたが、来年の日程はおそらく、みなさまにとってベストではないかと考えています。

すべての生徒さんが、この1年でさらなる成長を遂げ、来年も素晴らしい発表会を迎えられると確信しています。

◆今後の予定をお知らせします

一昨年までは、発表会后、秋に「ピアノ・トライ」をおこなっていましたが、昨年度は、年明け1月より「ピアノ・トライ」をおこないました。発表会后、十分に準備をする時間があったとご好評をいただきましたので、今年度も「ピアノ・トライ」は、1月におこないたいと考えております。くわしい日程や要綱は、来月号の「とらいあぐる」でお知らせいたします。お申し込みは、12月初旬の予定です。

発表会の次に来る大きなイベントは、11月3日（祝）の「音楽の集い」です（くわしくは、次のページをごらんください）。

12月、年間スケジュールでは、客員教授ダイアン・アンデルセン先生の来日をお伝えしていましたが、アンデルセン先生のご都合により、来年（2017年）3月中旬に延期となりました。申し訳ございません。3月には、プライベートレッスンとコンサートを予定しています。日程につきましては、確定し次第、お知らせいたします。

1月には、「ピアノ・トライ」のほか、副科の生徒さんの発表会「フォルテの会」を、1月29日（日）に予定しています。例年より少し早い時期の開催となりますので、副科の生徒さんは、がんばって準備にはげんでください。

イベントの日程や内容について、ご不明の点は、ご遠慮なく本部にお問い合わせください（03-5966-7711：担当 矢島・伊藤）。



◆「音楽の集い」を開きます

文化の日は毎年、“音楽を愛する人が集う日”と決めています。今年も11月3日（祝）に、「音楽の集い」を開きます。「音楽の集い」は、おとなの方の発表会です。会場は「ひびきホール」、12：30開場13：00開演です。詳細は、教室内のポスターで、お知らせしています。

一音会でレッスンをお受けになっている方だけでなく、一音会にお通いの生徒さんのご家族の方も、ご出演可能です。もちろん、連弾、アンサンブル、合唱なども、大歓迎です。伴奏者が必要であれば、スタッフが伴奏いたしますので、ご遠慮なく本部までご相談ください（担当者：谷口・普久原・森田）。

参加費は1グループ6500円となります。（DVD希望の場合は1080円を追加でご負担ください。）聴きにいらっしゃる方は入場無料です。

◆新しい先生が来ました

一音会に新しい先生がやってきました。ピアノ発表会の講師演奏で、すでにその腕前を披露していますので、演奏をお聴きになった方もいらっしゃるでしょう。

竹本 侘愛（たけもと れい）先生

小学1年生よりピアノを習い始める。北鎌倉女子学園中学校音楽コース、同高等学校音楽科、桐朋学園大学卒業。今までに長谷川裕子、故 舘美佐子、和田泉、高橋希代子 岡本美智子の各氏に師事する。現在はピアノ指導と並行して、主に楽器や声楽、合唱などの伴奏で活動している。

<先生よりメッセージ>

一音会に通っている全ての生徒さんが、音楽が好き、ピアノが好きという熱い思いを持ち、日々成長できるよう、お手伝いしていきたいと思っております。一人一人の生徒さんにしっかりと寄り添って、豊かな音楽作りを目指します。



◆「絶対音感プログラム」が紹介されました

フロリダ州立大学心理学部教授、アンダース・エリクソン著「PEAK」という本が、今年出版され、世界的に話題となりました。それを受けて日本でも、文芸春秋が「超一流になるのは才能か努力か？」というタイトルで、7月下旬に翻訳を出版しました。



この本の中で、一音会が長年、開発実践してきた「江口式絶対音感プログラム」のことが取り上げられています。

著者エリクソン教授は、音楽にかぎらず、チェス、テニス、数学、医療、あらゆる分野の世界的トッププレイヤーの研究をおこなってきた人物であり、共通のトレーニング法則を提唱しています。教育に携わる人々に、大きな影響を与えている理論ですので、ご興味がおありの方は、お手にとってごらんください（ショパンの受付に見本があります）。

◆「江口メソードセミナー」を開催しました

9月8日（木）、静岡県、兵藤楽器磐田店にて、江口メソードのセミナーを開催しました。台風が接近する、悪天候の中でしたが、約30人のピアノの先生方がお集まりくださいました。ご来場、ありがとうございました。

スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。